

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
106	川崎市立東柿生小学校	井上 清一

学校教育目標	今年度の重点目標
一人ひとりの子どもの笑顔が輝く学校の創造 ～児童・保護者・地域・教職員により共育する学校～	I 確かな学力を育む 粘り強く学習に取り組む子 II 豊かな心を育む 自分と友だちを大切にする子 III 健康な体を作る 力を合わせ、たくましく挑戦し、健康な体を作る子 IV 地域と共に生きる ふるさと東柿生を大切に思う子

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
I 確かな学力を育む教育の推進	①基礎的知識・技能の確実な習得と活用・応用	○学校全体、学年で共通した学習規律設定し、学習に集中して取り組めるような基盤を作ることに努めた。家庭での学習への取り組みを継続的に実施することで主体的に学習に向かう姿勢や習慣の定着を図った。 ○朝の短時間学習を固定化して実施した。保護者の方のご協力をいただきながら、この中に週1回程度の読書の時間を確保することで、本に触れる機会を持つことができた。 ○朝の短時間学習の計画的・効果的な運用と教育課程への適切な位置づけの確認・検討を継続的に取り組んでいく。 ○それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人ひとりの資質能力を高めるための活動の充実を図った。「学ぶこと」の楽しさや意義を実感したり、社会へのつながりを意識したりすることができた。	・学習規律を確立し児童が学習へ集中できる環境づくりに一層努める。GIGA端末を活用した学習する習慣の定着を図っていきたい。 ・朝の短時間含めた60分授業や外国語、読書等の活動時間として計画的に運用し、朝の短時間学習のさらなる充実を図る。 ・わかる喜び・できる実感を児童が味わい主体的に学ぶ姿勢を育成していくために、多様な学びの提供、課題設定、学習環境等の授業改善の工夫に努める。	
	②協働的な学びを通じた思考力・判断力・表現力の育成	○一人ひとりの学びの保障 ○問題解決学習の充実	○「繋がる」学び 個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けて、思考ツールやグループ学習等の有効的な活用を図り、主体的・対話的な学びを推進した。 ○自分で目標をもって、その目標に粘り強く向かうことができるよう環境づくりに努めた。 ○学びの見通しをもった学習、学習したことの振り返りを大切にした問題解決学習の充実を図った。	・児童の実態に合わせ、主体的・対話的で深い学びの実現を意識した単元計画の作成に努める。 ・6年間を見通した資質能力の育成を視野に入れた系統性を重視したカリキュラムマネジメント、授業改善に努める。
	③地域教材等価値ある学習材の吟味・活用	○地域の特色を生かした魅力ある単元づくり (キャリア在り方生き方教育)	○生活科・総合的な学習の時間を中心にキャリア在り方生き方教育の視点である「同年齢・異年齢の人たちとの触れ合い」「地域での活動」を取り入れたカリキュラムマネジメントの推進を図った。連携・協力の機会をもつことができ「地域に開かれた学校」づくりにつながった。 ○魅力ある単元づくり・教育課程の充実を図ることができた。今後もより幅広い視野をもって教育課程のさらなる充実を追求する。	・「キャリア在り方生き方教育」を意識した教育課程の一層の充実を図る。地域で育ち・地域を愛する児童の育成を今後も継続してめざす。 ・地域に目を向け、大事な教育力として単元づくりに効果的に取り入れていく。児童が地域への関心を深め、郷土を愛する気持ちや態度を育んでいくことをめざしていく。

II 豊かな心をはぐくむ	①認め合い、協力し合う学級づくり	○児童の主体的な活動の推進 ○共生*共育の実践 ○学習・生活における振り返りの充実	○学級活動の充実を図り、児童のよりよい人間関係の構築に努めた。また、様々な活動においてめあてをもつこと・協力することの大切さを実感できるような取り組みの工夫は、児童の意識向上につながった。 ○年3回の効果測定とその後の研修会をもち、「かわさき共生*共育プログラム」の効果的な実践を心がけた。 ○学習や活動における振り返りを大切にし、自己の成長への気づき・自己肯定感の向上を図る機会をもった。今後も自己肯定感を高める取り組みを継続して実施していく。	・職員研修等の機会を通して職員の意識向上を図り、意図的・計画的な取り組みを实践する。また、児童の意識向上につながる教育課程のさらなる充実を図る。 ・共生*共育の実践を継続していくことで、学級をよりよい集団として高める機会として有効に活用していく。 ・学びの過程において得た子ども自身の活動の成果や課題等を振り返ることで次の活動につながる。子ども成長を意識した振り返りの充実を継続的に実施していく。
	②道徳教育、人権尊重教育を基盤とした心の育成	○豊かな感性を育む人権尊重教育の推進と児童会活動等の取組 ○道徳教育の充実	○人権週間における児童の主体的活動として、代表委員会での提案で全校児童に呼びかけ、人権やいじめについて各学級で話し合いをもった。自分が経験したことを言葉で伝えたり、各学級で話し合ったことを紹介したり、掲示したりするなどの活動を通して全校で考えることができた。今後も楽しく安心して過ごせる学級学校づくりに主体的に取り組める児童の育成をめざした活動の工夫継続してく。 ○全校一斉道徳授業公開をし、保護者への啓発に努めた。	・児童会活動、スマイル班活動（異学年交流）のさらなる充実、児童朝会や集会活動等の見直しを図り、児童の主体的な取組を教育課程に位置づけ、推進していく。 ・考え議論する道徳教育をめざし授業改善に取り組む。
	③子どもが安心して過ごせる学校の創造	○アンケートの実施と相談体制の充実 ○問題等の未然防止・早期対応	○年3回の「学校生活アンケート」を実施し問題等の未然防止・早期対応に生かした。また、個別面談・ケース会議等を充実させ、個や集団の指導につなげた。 ○支援教育コーディネーター・養護教諭を中心とした児童支援部会において組織的に対応した。 ○問題等の未然防止、早期発見・対応をさらに推進するには、ケース会議の在り方や職員間での情報共有・職員の児童指導力向上などが継続的な課題となる。	・児童支援部会、校内委員会全体会を充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見につなげる。また、児童支援コーディネーターを中心とした組織的な対応力を高めていく。 ・教育相談等の充実を図り、さらなる保護者との信頼関係の構築に努める。 ・定期的な職員研修を通して児童に寄り添った指導の在り方について研鑽を積み、安心して過ごせる学級づくりに生かす。
III 健康な体を作る	①安全・健康教育の充実	○生活習慣の定着 ○児童の健康・安全に対する意識の向上	○健康・安全に関して主体的に考え行動できるような児童を育てるために、「みんなのやくそく」を中心としたルールやマナーの確認・徹底、避難訓練等の機会を活用した防犯・防災教育の推進を図った。 ○健康・安全で気持ちの良い学校生活をおくるために、一層自ら考え主体的に取り組める児童の育成をめざすことが必要である。	・学校生活におけるルールやマナーについて、児童一人ひとりがその必要性を自覚し、学級活動や児童会活動での取り組みを考え、主体的により良い学校生活の在り方を追究していく活動を活性化させる。 ・児童一人ひとりが生活習慣への問題意識をもてるような取り組みを図る。 ・家庭や地域との連携を図りながら、事件や事故、災害等から身を守ることに児童が主体的に考えることができるような指導・活動の工夫をし、児童の安全に対する意識の向上を図る。
	②児童の自主的活動の推進	○全力で取り組める活動の充実	○児童会活動等において児童がめあてをもち主体的に活動する姿が見られた。 ○行事や特別活動等で育成する力を明確にした上で、それぞれの活動のさらなる活性化と教育課程への位置づけが必要である。	・力一杯に頑張ること・力を合わせることを重視する等、たくましく生きる態度を養うことをめざす。 ・「きらきらタイム」「スマイル班活動」「委員会活動」などを通して育成する力を明確にし、年間の活動計画を立てる。

IV 地域と 共に 生きる	①地域社会と連携した活動の充実	○安心安全な学校づくり ○地域と連携した教育活動の活性化	○防犯パトロールボランティア、PTAの方々などが一体となった「安全パトロール」は、児童の登下校時の安心安全に大きく貢献した活動となっている。定期的な通学路点検及び災害時を想定した重点的な点検等を図っていく必要がある。 ○「持続可能な地域を創出する児童の育成」をテーマに、児童が地域の一員としての自覚をもって学習を進めていくことを大切にした教育活動を実践した。	・「いっしょにまわろうパトロールの日」を実施することで保護者会とともに子どもたちの登校の安全を見守った。今後はさらに意識を高めて継続していきたく。 ・登下校や学習時の防犯パトロールボランティアの見守りの継続をお願いするとともに、子どもたちにとっても地域の方とのよき交流の機会としていく。 ・地域と連携した防災教育、安全教育の推進を図る。
	②学校と保護者・地域との連携	○学校からの情報発信する機会の充実 ○保護者・地域の声を学校経営に生かす	○学校・学年便り、HP、配信メール等を活用し、学校での取り組みを発信した。 ○4年ぶりの制限なしでの授業公開を実施した。学校公開日、学校教育推進会議、保護者アンケート等で保護者・地域の意見を集めることに努めた。 ○HPを活用した情報発信の充実を図り成果となっている。今後も継続した取り組みが必要である。また、より開かれた学校となるよう、学校行事等を地域に公開する機会の充実について検討していくことが課題となる。	・学校経営方針・学校評価等の掲載を含めたHPの計画的な更新を推進し、情報発信の場として活用していく。 ・地域や保護者の声を全職員で共有し、保護者や地域との連携や職員の学校運営への主体的な参画の強化を図る。 ・地域や保護者の教育力を学校運営に生かすためにも学校の取り組みを知ってもらう機会を充実させる。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での子どもたちは落ち着いて学習に取り組んでいる。 ・GIGA端末を活用して授業に臨んでいるすがたに驚いた。これからももっと向上していくことを願う。 ・学校行事を通して様々な経験を積んでいる。感染症も心配なくなったので一層充実させてほしい。 ・道路拡張工事が進まず、登下校の安全が心配である。登下校の安全のために見守り活動については今後も継続して行っていく。 ・学校目標の達成に向けてこれからも継続して活動の充実を図っていくことが必要である。 	<p>4つの重点（10項目）を柱にして、今年度の教育活動を推進した。4つの重点のねらいに即した評価を行ったことで、それぞれの目標に対する成果と課題がより具体的に見えてきた。これらの課題を全職員で共有し、次年度の新たな目標の設定をしていきたい。今年度は「授業力向上」「安全安心な学校づくり」を視野に入れての教育課程の充実を図ったが、課題となる点もあることから次年度も継続して取り組む。また、「川崎市教員育成指標」をもとに教員の職責、経験及び適正に応じた向上を図るために職員研修等を充実させ、学校全体の指導力向上をめざしていきたい。</p>

